

Ⅳ 校内研修計画の作成

1 校内研修の推進に当たって

教員は、児童生徒の人格の形成を目指し、その資質の向上を促すという非常に重要な職責を担っている高度専門職であり、学校教育の成否は、担い手である教員の資質・能力に負うところが大きい。

教員の資質の向上を図るとともに指導力を高めるためには、学校の教育課題を明らかにし、校長の方針の下、課題解決に向けて全教職員の共通理解による研修が進められるとともに、同僚性を発揮して日常的に学び合うなどの環境・雰囲気づくりや、それを踏まえた校内研修体制を整備し、機能させることが大切である。

教育課題の解決のためには、学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の視点、事前の研究や実態調査等の結果を分析・検討し、学校教育の目的や目標に照らして、それぞれの学校や児童生徒が直面している教育課題を明確にしなければならない。その上で、解決のための実践的研究の充実を図ることが肝要である。

2 校内研修に努めるべき法的根拠

(1) 教育基本法第9条

法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

(2) 教育公務員特例法第21条

教育公務員は、その職務を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。

3 校内研修計画作成上の留意点

(1) 学校の教育課題を明確にし、校長の方針の下、課題解決のために全教職員で取り組むことを共通理解する。

(2) 学校の教育課題や教育目標、校長の学校経営方針と関連付けて、研究のねらいや児童生徒に身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像等を明確にし、具体的な方策を明記する。

(3) PDCAサイクルに基づく校内研修になるよう、成果と課題を明確にする。

4 校内研修計画作成の手順

(1) 教育課題の把握

学校の教育課題及び児童生徒の実態を把握するための例として、以下の方策が考えられる。

ア 各種調査やアンケート調査等の分析

イ 職員会議、教育課程編成会議等での職員からの意見収集

ウ 校内研修における成果と課題の把握

(2) 目指す児童生徒像の設定

学校の教育課題や教育目標、校長の学校経営方針と関連付けて、目指す児童生徒像を設定する。

(3) 研究主題の設定

上記(1)(2)を受けて、研究の目的(目指す児童生徒像等)を達成(育成)するための方法などを主題として設定する。必要に応じて副題を設定し、研究内容の明確化を図る。

主題設定の理由として、研究の指針、昨年度までの研究の成果や課題、児童生徒の実態、目指す児童生徒像との関連、研究主題に迫るための手立てなどを記述する。

(4) 研究目標と研究仮説の設定

研究目標は、研究の方向性やゴールを示すものとして、研究における手立てや身に付けさせたい資質・能力等を具体的に設定する。研究仮説は、校内研究の見通しや予測にあたるものとして、研究の手立て、身に付けさせたい資質・能力、児童生徒の変容の姿等を具体的に設定する。

(5) 具体的研究方法の設定

上記(2)～(4)を受けて、研究内容、研究方法、検証方法について、具体的に設定する。学校の教育課題及び教員等の資質の向上に関する指標を踏まえ、一般研修を設定する。

5 研究主題の提出について

令和8年度の「研究主題」と「教科・領域」は、令和8年2月26日(木)までに提出してください。提出方法等については、令和8年1月中旬に各学校に事務連絡にて通知します。

6 校内研修計画作成例

校内研修計画は以下の点に留意して作成します。

- (1) 学校の教育課題を明確にし、校長の方針の下、課題解決のために全教職員で取り組むことを共通理解する。
- (2) 学校の教育課題や教育目標、校長の学校経営方針と関連付けて、研究のねらいや児童生徒に身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像等を明確にし、具体的な方策を明記する。
- (3) PDCAサイクルに基づく校内研修になるよう、成果と課題を明確にする。

令和〇年度 校内研修計画

〇〇〇立〇〇〇学校

1 研究主題

学校の教育課題、目指す児童生徒像を受けて、研究の目的（身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像等）を達成（育成）するための方法などを記述する。

例) 〇〇〇のための〇〇〇の工夫(研究)(〇年次)

目的

方法

※副題を設定する場合は研究主題に「目的」、副題に「方法」などを記述することが望ましい。

- ・活用する力を育成するための学習指導方法の工夫（3年次）

2 教科・領域

研究する教科・領域を記述する。

- 例) ・教科だけの場合 → 「全教科」「算数」「国語、算数」 など
・教科と領域を含む場合 → 「全教科、全領域」「生活、総合的な学習の時間」 など
・領域だけの場合 → 「全領域」「総合的な学習の時間、特別活動」 など

3 主題設定の理由

研究の指針、昨年度までの研究の成果や課題、児童生徒の実態、目指す児童生徒像との関連、研究主題に迫るための手立てなどを記述する。

例)

【研究の指針】

- ・学習指導要領
- ・文部科学省の方針
- ・青森県教育委員会の方針 など

「 」は文末例

「…が大切である。」
「…が求められている。」

【昨年度までの研究の成果や課題】

- ・児童生徒の変容、現状、問題点 など

「…という成果が見られた。」
「…が十分でなかった。」

【児童生徒の実態】

- ・各種調査等客観的なデータ
- ・調査結果の分析 など

「…という実態である。」
「…という結果が明らかになった。」

【目指す児童生徒像との関連】

- ・学校の教育課題、教育目標
- ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力
- ・校長の学校経営方針 など

「…という課題が挙げられた。」
「…する力を身に付けさせたい。」
「…という学校経営方針を基に、…とした。」

【研究主題に迫るための手立て】

- ・具体的な解決方法(研究内容、検証方法)、調査方法、方向性 など

「そこで、…ではないかと考える。」

【主題設定の理由の結論付け】

- ・上記の設定理由のまとめ

「…の考えから、…を主題として設定した。」

4 研究目標

研究の方向性やゴールを示すものとして、研究における手立てや身に付けさせたい資質・能力等を明確に記述する。

例) ○○○において、○○○のために、○○○が有効であることを実践から明らかにする。

場、内容 目的 方法

- ・○○科において、活用する力を育てるために、既習を生かして問題解決する場面の工夫や習得と活用の場面を明確にした単元構成の工夫が有効であることを実践から明らかにする。

5 研究仮説

校内研究の見通しや予測にあたるものとして、研究の手立て、身に付けさせたい資質・能力、児童生徒の変容の姿等を明確に記述する。

例) ○○○において、○○○することによって、○○○のような変容の姿が見られ、○○○になるであろう。

場、内容 方法 目的

- ・○○科において、既習を生かして問題解決する場面を工夫することによって、習得した知識及び技能を生かして考え、自分の言葉で互いに伝え合う姿が見られ、活用する力を育てることができるようになるであろう。
- ・○○科において、習得と活用の場面を明確にした単元の指導計画を工夫することによって、教師による適切な評価、支援ができるようになり、活用する力が育成されるだろう。

6 研究内容

目指す児童生徒像、研究主題、研究目標、研究仮説を踏まえて、具体的な取組を記述する。

例) ○○○における、○○○の工夫

方法・場 具体的な取組

- ・日常の授業における、既習の知識及び技能を生かして問題解決する場面の工夫
- ・単元において、知識及び技能を習得する場面と既習を生かして活用する場面を明確にした単元の指導計画の工夫

研究主題、研究目標、研究仮説、研究内容の整合性を図ることが大切です。

7 研究方法

主たる研究の方法を記述する。

- 例) ・提案授業及び研究協議を通して仮説の検証を行う。
・学年（ブロック、教科）ごとに研究計画を立て、授業実践を行う。
・授業実践に基づく成果と課題を学期ごとに明らかにする。

学校の教育課題解決のために全教職員で取り組むことができるような研究方法を設定します。

8 検証方法

具体的な検証の仕方を記述する。

- 例) ・各種調査結果を分析し、変容を把握する。
・児童生徒の振り返りから変容を評価する。
・児童生徒への学習アンケートを学期（前期・後期）末に行い、変容を把握する。

児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を振り返る視点とするなど、検証方法を明確に設定し、校内研修の成果と課題を明らかにします。

9 一般研修

学校の教育課題及び教員等の資質の向上に関する指標を踏まえ、研修内容を設定し、記述する。

10 年間計画等

PDCAサイクルに基づき、実施時期や役割分担などを決定し、記述する。

分掌間で連携して計画的・実践的な計画を立てます。全教職員で共通理解を図り、取り組みます。